

アーカイブ拠点施設ミッション・中期目標・中期計画 たたき台 (H30.12.18)

	ミッション	中期目標	中期事業計画
1 資料 収集・ 保存	<p>実物資料などの「記録」とオーラルヒストリーなどの「記憶」の継続的な収集・蓄積を通して、原子力災害を含む未曾有の複合災害への対応、様々な困難を乗り越え復興する過程など、福島が有する唯一無二の経験や教訓を決して風化させず、未来に継承していく。</p>	<p>(1) 「後世に伝えたい福島の経験」を前提に、「アーカイブ拠点施設に関する資料収集ガイドライン」に基づき計画的・網羅的に資料を収集する。</p> <p>(2) 展示・プレゼンテーションや調査・研究、研修の各事業との関連も考慮しながら、体系的に資料収集を行う。</p> <p>(3) 収集した資料について、効率的な利用と破損・劣化防止を図るため適切に保存・管理する。</p>	<p>(1) 震災関連資料の収集 【数値目標：毎年度、新規収集資料数〇万点以上】</p> <p>ア アーカイブ拠点施設に関する資料収集ガイドラインや毎年度の収集計画に基づき、網羅的に資料収集を行う。なお、収集にあたっては市町村や団体の協力を得るとともに、広く県民にも資料提供を呼びかける。</p> <p>イ 展示や研究などアーカイブ拠点施設で実施する各事業での活用を意識するとともに、不足分野を把握するため、体系的に資料収集を行う。</p> <p>(2) 震災関連資料の分類・整理 【数値目標：毎年度、資料のデータベース化〇万点以上】</p> <p>ア 収集した全ての資料に名称やカテゴリー、場所等必要な情報を付加したメタデータを作成し、アクセスが容易になるよう分類する。</p> <p>イ 分類した資料について、外部への提供に資するほか、ガイドラインや収集計画の見直し・検討に活かせるよう、データベース化を行い分かりやすく整理する。</p> <p>(3) 震災関連資料の保存 【数値目標：資料の保存環境・状態調査 毎年〇回実施】</p> <p>ア アーカイブ拠点施設資料選定検討委員会を開催し、ガイドラインに基づき保存する資料を検討する。</p> <p>イ 実物資料については劣化防止処置をしたうえで、配置や保存方法に配慮し収蔵庫内に保管する。</p> <p>ウ 収集資料の破損・劣化防止や活用促進を図るため、実物保存だけでなく画像などのデジタルデータとしても保存する。</p>

	ミッション	中期目標	中期事業計画
2 調査・研究	<p>(1) 複合災害、特に原子力災害と復興過程に関する実態の整理と研究を俯瞰的に行い、そこから得られる知の体系化を進め、新たな学問分野の確立につなげていく。</p> <p>(2) アーカイブ拠点施設に蓄積・体系化された知を社会に還元するため、積極的な情報発信に努め福島に関する正確な事実の共有を促進する。</p> <p>(3) 複合災害、特に原子力災害と復興研究の先駆者として、新たな知の体系化とその学術的価値の確立を先導していく研究者を育成する。</p>	<p>(1) アーカイブ拠点施設が実施する、原子力災害・復興研究の体系化と既存の調査・研究成果の整理を行うとともに、他機関と連携した研究プロジェクトにより発災から復興過程の実態の整理を進めていく。</p> <p>(2) 原子力災害・復興研究を行う研究者の拠点として、福島に関する最新の知見を発信し、風評払拭に努めていく。</p> <p>(3) 原子力災害対応や復興の研究及び実務を牽引する研究者を育成するため、他機関の研究者や防災実務者等との連携を進め、災害対応や復興に関する多様な知見を得られる研究者の育成体制を構築する。</p>	<p>(1) 調査・研究の実施</p> <p style="text-align: right;">【数値目標：最終年度までに各研究分野で実施するミッション研究 ○件以上】</p> <p>ア 継続的・組織的に取り組むべき研究分野を以下の5つとし、常任研究員は、それぞれの専門分野を活かして研究に取り組む。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 放射線への対応 ② 原子力災害におけるコミュニケーションのあり方 ③ 原子力災害における行政対応 ④ 地域コミュニティの崩壊・再生と住民意識の変遷 ⑤ 地域産業の崩壊・再生と産業構造の変遷 <p>イ アの研究分野ごとに、数年程度重点的に取り組む研究テーマを「ミッション研究」として設定し、常任研究員を中心に研究を進める。</p> <p>研究に際しては、必要に応じ他機関の研究者と共同して進めていく。</p> <p>ウ イのほか、常任研究員は、それぞれの専門分野を活かして、外部資金等を積極的に活用しながら個人研究に取り組み、研究分野に関する知見を深めていく。</p> <p>(2) 研究マネジメントの確立</p> <p style="text-align: right;">【数値目標：研究計画の点検評価 毎年○回実施】</p> <p>ア 調査・研究のミッション達成に向け事業を計画的・効果的に進めるため、上級研究員は、各常任研究員が年度当初に作成する研究計画及び年度末に作成する達成報告を取りまとめ、有識者による委員会（後述）の点検評価を受けつうえで施設としての研究計画及び達成報告を作成する。</p> <p>イ アーカイブ拠点施設の調査研究・研修事業について、専門的知見から評価及び指導・助言を行うため、有識者による「アーカイブ拠点施設調査研究・研修評価委員会（仮称）」を組織する。</p> <p>(3) 関係機関等との連携・協働</p> <p style="text-align: right;">【数値目標：研究集会の実施 年間○回】</p> <p>ア 研究促進のため、大学や他の研究機関などとの共同研究や研究集会の実施など、連携を強化する。</p> <p>イ 常任研究員は、研究活動に支障のない範囲で、自治体における地域防災計画等の策定支援、各種委員会への参画、講師派遣依頼への対応、災害発生時の自治体支援といった各種社会的要請に対応する。</p> <p>(4) 学術的価値の保存と体系化</p> <p>原子力災害・復興研究の新たな学問分野としての確立に向け、資料収集・保存を担当する学芸員と連携して、既存の研究成果及びアーカイブ拠点施設での調査・研究成果をアーカイブ化し、研究拠点としての体制を整備する。</p> <p>(5) 研究者の育成</p> <p>ア 上級研究員による適切な指導や関係機関との連携・協働のほか、アーカイブ拠点施設の各事業への参画などにより、常任研究員を原子力災害と復興過程に関する研究の専門家として育成する。</p> <p>イ アーカイブ拠点施設における任期終了後、常任研究員が専門家として社会で重要な役割を担うことができるよう、必要な環境整備に努める。</p>

	ミッション	中期目標	中期事業計画
3 展 示 ・ プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン	<p>(1) 収集・保存した様々な資料や調査・研究から見出される原子力災害を含む未曾有の複合災害の経験、教訓を展示やプレゼンテーションに活用することで、災害の実像や被害の大きさを来館者に実感してもらい、風化を防ぐとともに未来へ継承する。</p> <p>(2) 風評払拭や産業基盤の復活、新たなまちづくりなど、復興に向けた様々な挑戦を発信し、福島の「今」と「これから」の姿を世界と共有する。</p>	<p>(1) 蓄積された資料や語り部による生の声を活用し、来館者が複合災害の経験、教訓を自分事化できるような「体験型」の展示内容を充実させる。</p> <p>(2) 現在進行形で変化する福島の現状を伝えるため、展示内容を計画的に更新するほか、来館者の意見や思いを展示に反映させる。</p> <p>(3) 県や関係機関が整備する各施設と連携し、複合災害の経験、教訓や復興に向かう姿を一体性をもって発信するなど、県内各施設へのゲートウェイとしての機能を充実させる。</p>	<p>(1) 体験型展示の充実</p> <p style="text-align: right;">【数値目標 1：年間来館者数 〇万人以上】</p> <p style="text-align: right;">【数値目標 2：ボランティア育成事業実施数 年間〇回以上】</p> <p>ア 語り部ボランティアによる講話や展示解説ボランティアによる説明といった生の声による来館者との交流を積極的に進める。</p> <p>イ 語り部及び展示解説ボランティアを継続的に育成する。</p> <p>ウ 蓄積された資料を活用し、特定の個人や団体にまつわるストーリー性をもった展示を行うなど、来館者が複合災害の経験、教訓を追体験し、自分事化できるよう努める。</p> <p>(2) 現状やニーズに沿った展示の実施</p> <p style="text-align: right;">【数値目標 1：展示内容の更新 最終年度までに〇回】</p> <p style="text-align: right;">【数値目標 2：企画展の開催 年間〇回以上】</p> <p>ア 蓄積された資料や調査・研究の成果を活用し、現在進行形で変化する福島の姿や新たな知見を的確に伝えるため、展示内容の計画的な更新に努める。</p> <p>イ 復興に関する最新の研究や技術を広く紹介するため、企画展示スペースにおいて企業や研究機関による企画展を定期的に開催する。</p> <p>ウ 展示内容や運営方法の改善、集客の工夫に活かすため、来館者へのアンケート調査を実施する。</p> <p>(3) 情報発信によるゲートウェイ機能の充実</p> <p>ア 一定数・継続的な来館だけでなく、県内各施設の回遊による相乗効果が期待できる団体視察や教育旅行を積極的に誘致するため、旅行者、学校等への広報・PRを重点的に実施する。</p> <p>イ 人々の興味を喚起し、アーカイブ拠点施設を入口に復興の最前線を訪れてみたいと思ってもらえるよう、インターネットやアニメーションの活用など、手段・内容を工夫した広報活動を展開する。</p>

	ミッション	中期目標	中期事業計画
4 研 修	<p>(1) アーカイブ拠点施設の調査・研究成果を社会に還元し、原子力災害に対して適切かつ柔軟に対応し、復興を牽引できる人材を育成する。</p> <p>(2) 福島の実況・教訓に関する最新の情報を発信し、福島に関する正確な事実の共有を促進するとともに、研修事業を通して他機関との連携ネットワークを構築し、災害発生時の支援体制等に活かしていく。</p>	<p>(1) 原子力災害を含む複合災害対応や復興施策立案能力の向上を目的とした研修プログラムを、アーカイブ拠点施設の調査研究成果を基にして構築する。</p> <p>(2) 福島に関する理解促進を目的とした研修を幅広い層を対象に実施するとともに、研修機会を通して他機関との交流を促進していく。</p>	<p>(1) 研修プログラムの確立・実施</p> <p>【数値目標 1：研修プログラムの確立 研究分野ごとに〇本以上】 【数値目標 2：標準研修プログラムの実施 毎月〇回以上】</p> <p>ア アーカイブ拠点施設の調査・研究成果を基にした唯一無二の研修プログラムを確立する。</p> <p>イ 一般来館者や教育旅行者を対象に、福島に関する正確な事実の共有を目的とした標準的な研修プログラムを確立する。</p> <p>ウ 福島に関する正確な事実の共有と調査・研究成果の発信を目的に、施設の研究 5 分野の観点から原子力災害・復興に関する理解を促進するオムニバス形式の講義を確立し、館内外で実施する。</p> <p>(2) 他団体との連携促進</p> <p>研修実施はもとより、講師の招聘や外部への講師派遣を通して、行政、大学や他の研究機関、企業等と組織・担当者レベルでの交流を促進するとともに、現場の様々な声を研修プログラムの企画・改善に活かしていく。</p>